

令和2年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492600364	事業の開始年月日	平成23年10月1日
		指定年月日	平成29年10月1日
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター大野台		
所在地	(〒252-0331) 神奈川県相模原市南区大野台 3-15-50 ニチイケアセンター大野台		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和2年10月27日	評価結果 市町村受理日	令和2年12月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様とスタッフが日頃から楽しんでいられる空間を作れるように、行事や食事を工夫し日常に楽しさが出るように努めています。
又、一人一人が活躍の場を得意分野でもってもらうよう支援する工夫をし自信やその人らしさを持ち続けてもらう。
その際に、スタッフは脇役でいるように気をつけ入居者様が主役でいられるように徹します。
入居者様をホーム内だけで完結する支援をするのではなく家族・医療・薬剤師・地域・他サービスと連携を行い、ケアスタッフが「あきらめない。決め付けない」事で一人一人を支援し、一人一人の可能性がこれからも続くように努めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和2年11月6日	評価機関 評価決定日	令和2年12月14日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 ニチイケアセンター大野台はJR横浜線「古淵」「淵野辺」両駅から徒歩で20分、又は、両駅からバス利用で最寄りの「大野台中央」バス停から徒歩5分の場所にある。周辺は住宅地で、近隣にはスーパーやドラッグストア、公園などがある利便性の高い場所である。グループホームに隣接して同法人の小規模多機能型居宅介護事業所を併設している。 【理念の継続】 開設時に作成した理念、「あきらめない」「決めつけない」を常に念頭に置いたケアを心掛けている。職員はアセスメントや利用者、家族とのコミュニケーションを大事にして会話の中から、できることや得意だったこと、好きなものなどを引き出している。在宅時には、何かをすることに意欲をなくしていた方が、入居後職員の手助けで洗濯物を畳んだり、片付け物をしたり、進んで手伝いをしている。入居後の利用者の変化に家族も驚きとともに喜んでいいる。 【ホーム内での行事やレクリエーションの充実】 今年度は新型コロナの感染症予防対策としてボランティア受け入れの自粛や、恒例地域行事の中止などがあったため、ホーム内で職員と利用者が一緒に楽しめる季節の行事や、レクリエーションなどを増やしている。夏祭りや秋の室内運動会は、各フロアごとに実施した。花火は玄関前で合同で楽しんだ。また、ご当地料理や、ちらし寿司、茶わん蒸しなどを利用者も一緒に調理して職員と食卓を囲んでいる。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ニチイケアセンター大野台
ユニット名	やまぶき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	ニチイケアセンター大野台
ユニット名	なでしこ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あきらめない。決め付けない」という理念を共有は出来ているが、継続して取り組みを行い更なる向上が必要である。	開設時に作成した理念を継続している。アセスメントや利用者との会話の中から、できることや得意なことなどを丁寧に聞き取り、利用者がホームでの日々の生活において活躍できる役割などをケアプランに取り込み、職員がサポートをしながら支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は、自治会への行事の参加や近隣の保育園の行事に参加していたが、現在はコロナの影響で中止されている。 現在は、散歩の途中で挨拶したり、自治会の回覧板を届けたりしている。	新型コロナ禍以前は近隣の商店に買い物に出かけたり、隣接する保育園の園児と日常的に交流を持っていた。傾聴ボランティアや、歌や踊りのボランティアの来訪など外部の方との触れ合いもあった。現在は、ホームの玄関先で保育園児の遊ぶ様子を眺めたり、事業所周辺をマスク着用で散歩している。月2回来る移動パン屋で好きなパンを買うのが利用者の楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の開催を行い理解を深めたりRUN伴への参加を行っている。 又、市内の医療・福祉交流会への参加等を通じて地域との連携を図る。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において参加された御家族・自治会・地域包括の方々より挙げられた要望を、適宜サービス提供に活かすよう実践している。	今年度に入り運営推進会議ができない状況が続いている。運営推進会議のメンバー（家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、近隣のグループホーム管理者等）には、事業所の運営状況を文書をもって報告している。家族の意向で行っていたRUN伴や、やわらぎ英会話教室への参加などは現在中断しているが、再開後は参加する予定である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの方へ出席いただき、連携をとるよう取り組んでいる。	相模原市高齢相談課には運営推進会議の議事録や外部評価結果の報告書を持参した際に話をしている。市の担当課から、併設の小規模多機能型居宅介護事業所とグループホームの見学の申し出があり、受け入れている。地域包括支援センターの後押しで他の事業所と連携して行っていた「認知症カフェ」は今後も継続する意向である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修において身体拘束について取り上げ、身体拘束に関する正しい知識を理解できている。 又、今年度より社内でも月一回は拘束についての研修を義務付けている。	毎月テーマを決めて身体拘束廃止委員会を行っている。委員会の内容を毎月のホーム会議で話し合い、ケアに生かしている。年1回、全職員が「高齢者施設における虐待防止にかかる一斉点検」でセルフチェックを行い、自らのケアを省みている。玄関、フロアの入り口は日中開錠し、自由に出入りができるようにしている。利用者が外に出たいときは職員がそばに寄り添い、利用者の出たい理由を否定しないで聞いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修において高齢者虐待について取り上げ、高齢者虐待防止法に関する正しい知識を理解できている。 ニュース等の事例をスタッフ間で共有し理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権の尊重に関する事業や制度として会社のマニュアルに記載されており、それに基づく内部研修を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず重要事項説明書とサービス契約書の読み合わせや、都度の質疑応答を行い十分な説明を行っている。また、解約時も同様である。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様やご家族様からのご意見やご要望は随時受け付けており、その内容によってホーム会議・ユニット会議・各種委員会会議などで検討して全スタッフで情報共有を行っている。又、社内で定期的にご家族へアンケートを実施している。	毎年法人で行う顧客満足度調査の結果は、各事業所にフィードバックされ運営に生かしている。今年度は新型コロナ禍の中、利用者や家族にとっても面会ができない状況が出ているが、利用者の不安払拭や、家族の利用者を慮る気持ちに配慮して、玄関先で距離を保った状態での面会や、オンライン面会を取り入れている。また、ユニット通信を発行し、利用者の行事の様子や日常の様子を写真入りで家族に伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議・ユニット会議・申し送りなどで随時受け付けており、必要に応じて個別面談も実施している。その中で、職員の意見や提案の場を設け反映させている。	毎月のホーム会議やユニット会議、ケアカンファレンスで職員の意見を聞いている。ホーム会議では、事業所全体の運営方針や行事予定、更に研修、各ユニットの状況報告などを話し合っている。ユニット会議では、職員から提案のあった業務改善や利用者のケアについて話し合い、情報共有している。管理者は毎月の会議や年1回の個別面談に加え、職員の様子の変化や話したい素振りなどをキャッチした時は、個別に話をする機会をできるだけ多く作っている。職員間で意見交換をする機会を多く持つことで、風通しの良い職場環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフに委員会活動などの役割を担ってもらうことで“みんなでホームを作る”という意識を持ち、また常勤への登用制度等による目標達成や意欲向上の取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○JTによりトレーニングを実施している。 段階的にスタッフのレベルアップに添った運営参加・ケアが出来るようスキルアップの場を提供している。 又、施設外の研修案内を回覧し参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	内の系列拠点はもちろん、同業他社との交流を図るための連絡会や現任研修会などに参加している。 又、系列拠点の行事へスタッフが参加し交流を図っている。 又、管理者は市内の事業所連絡会やRUN伴の役員等へ参加し意見交換・交流を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居者様の不安や困っていることに耳を傾け観察し情報を集め、協力関係を早期段階で構築出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の不安や困っていることに耳を傾け観察し情報を集め、協力関係を早期段階で構築出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご意見やご要望から、お客様の尊厳を守るために“今”必要な支援を判断し、他のサービスの方が適切と判断した場合には速やかに導入への支援を行う。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様ということを意識しながらも共に生活する者同志家族のような関係を築いている。又、ADLに合わせ「出来ること」を御自身でやっていただくよう支援を行なっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と情報を共有し支援共に本人を支えて関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人一人との時間を大切に、そこから昔話や馴染みの事を聞き関係性が続くように努めている。又、ご家族や知人の来訪を歓迎し楽しいひと時を過ごせるよう努めています。	近隣や、併設の小規模多機能型居宅介護事業所からの入居者が多くいるため、新型コロナ禍以前は利用者の友人たちが夕方までおしゃべりをしに訪れたり、毎週面会に来る友人もいた。新型コロナ禍以降は窓越しで携帯電話を使い顔を見ながら面会する方もいる。利用者の生活習慣や好きなことが継続してできるよう、お酒の好きな方には散歩の後に楽しむノンアルコールビールの提供をしている。園芸の好きな方には職員と一緒に植栽を楽しんだり、家事の好きな方には一緒に家事をしたりしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人を理解するように努め共通の話題や趣味をとおして関係性の構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望があれば必要に応じて可能な限り支援を実施する。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や御家族より今までの生活歴を伺い、本人や御家族の意向を把握するよう努め、今後どのように暮らしていきたいのかと言う意向を日々のコミュニケーションの中から確認する努力をしている。	利用者の寄り添い、できるだけ1対1で話をする機会を多く持つことで利用者信頼関係ができ、本音で話をしてくれるようになる、と管理者は職員に指導している。発語のできない方も仕草や表情の変化で思いや意向を把握している。利用者の意向把握には家族とのコミュニケーションも大切と考え、家族との話の中から利用者の情報把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしを把握する手法の一つとしてセンター方式を活用し、長年馴染んだ習慣や好み得意な事や苦手な事をご本人は勿論、家族にも協力してもらい確認・把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録へ日々の心身の状態を記録し、カンファレンス等でスタッフ間の情報の共有を行い現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を定期的に実施し気になる課題や原因を考え具体的な方法話し合い介護計画書を作成している。参加出来ない御家族や関係者も多いので来訪時に意向などを確認している。	センター方式を使いアセスメントをしている。介護計画作成に当たっては、管理者、ケアマネジャー、各フロアの職員が話し合い、医師や看護師の助言や、家族の要望を踏まえて作成している。家族とは日頃からよく話をすることで信頼関係を築き、家族の思いや不安を受け止め、計画作成に生かしている。入居時の介護計画は、1か月で利用者の様子を見ながら見直しをしている。通常は短期目標6か月、長期目標1年で見直しをしている。毎月のフロア会議やケアカンファレンスで利用者の1か月の状況や変化などを話し合い、モニタリングをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「チェックするだけの記録」にならない為に、ケアの実践事項を毎日記録を行なっている。休みの職員も居る為連絡ノートを別に作り情報を共有している。又ケアカンファを行い共有・反映をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	社内や地域で実施しているサービスとも十分に連携しており、必要なサービスやニーズに対して情報や可能性を提供出来る様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会への参加や地域の夏祭りへの参加や徒歩圏内のスーパーや公園の散歩等で地域資源を活用しながら日常・非日常を楽しめるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による往診はもちろんの事、往診だけではなく外来としても対応していただき迅速に必要な医療を受けれるような体制が整っている。 又、日常的にスタッフの疑問等へ早期に相談・助言の体制あり。	協力医（内科）の月2回の往診を利用者全員が受診している。往診は各フロア隔週のため毎週相談できるようになっている。往診時は訪問看護師とかかりつけ薬局の薬剤師も同行しているため、情報共有がしやすくなっている。今までのかかりつけの整形外科などの専門科には家族対応で通院している。往診や通院の医療情報は、「受診・健康管理記録」で共有している。訪問歯科は月2回希望する方の口腔ケアと治療に訪れている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援	協力医療機関の看護師との提携により、週一回の訪問看護サービスや適宜、スタッフが看護師にお客様の健康面や疾患などについて24時間相談できる環境がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には介護サマリーの作成などにより必要な情報を提供し、入院中は面会などにより情報収集するとともに、ご家族様やMSWと早期退院に向けての話し合いを実施している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様との事前聴取を踏まえ、重度化することが想定される状態になった時点で、ご家族様及び主治医と相談して方針及び支援方法を共有しチームとして支援する。	契約時に「重度化した場合における対応にかかる指針」を説明して同意を得ている。家族の意向は利用者の状態変化に応じて、その都度聞いている。開設以来3件の看取りを行っている。ベテランの職員が多いため看取りを経験した職員も複数名いる。急変や緊急時対応の研修に加え、訪問看護師による看取りの研修など、今後継続的に行う予定である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急救護に関する内部研修を実施し、応急救護や心肺蘇生に必要な知識と技術を学んだ。 又、社内マニュアルをスタッフが閲覧しやすい所に綴じ込んでいる。 又、救急救命士をお呼びして研修やご相談をして助言を得ている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練を計画しており春（3.4月）に総合防災訓練、秋（8.9月）に自主訓練を計画・実施している。	今年度は8月に日中の火災を想定した避難訓練を行った。3月には夜間想定訓練を予定している。災害用の備蓄は職員用を含めて3日分、ローリングストックしている。備蓄や熱源などの備品はリストを作成して管理している。近隣から避難訓練への参加はないが、職員の緊急連絡網を作成して備えている。	開所から9年経過して地域に開かれた事業所として認知されています。地域との関係を今一歩進めて、非常災害時に併設の小規模多機能型居宅介護事業所とともに、地域の要援護者の受け入れなどを検討されたり、地域の消防団への協力要請などを期待します。
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生において先輩である事を常に念頭に置き言葉使いや対応に気をつけている。尊厳の気持ちを忘れずに応じるようにしている。	毎月の研修の中で課題を決めて接遇研修をしている。また、「個人情報保護トレーニング」で個人情報保護について学んでいる。職員は記録を書く際は利用者名を部屋番号で表記したり、利用者の前では他の利用者の話はしない、トイレ誘導時の声掛けは耳元で伝えるなど細やかな配慮をしている。パソコンはパスワード管理し、個人記録は施錠できる書棚などに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事にもスタッフやご家族様による押しつけではなく、お客様自身が決定できるような働きかけの中で、本人の表情や様子を観察し自己決定が出来る様に働きかけをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のプログラムを決めることなく、その日の気分や体調等を勘案しその人らしさがでるよう工夫を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に依頼している訪問理美容を活用し本人にあった髪型やカラーも実施している。 ご家族へも協力をしてもらい季節や本人の好む物を着てもらえるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご当地の名産のメニューやレクを通じての食事作りを定期的に行っている。又、旬の食材を取り入れたメニューや誕生日の時は本人の希望するメニューを提供したりしている。	毎日の食事はレシピ付きの食材が配達される。行事や利用者の誕生日には、食材の購入から調理までを職員が行ったり、利用者の好みの出前を取ることもある。昨年の敬老会は出張の寿司職人を頼んだが、今年度は感染症予防対策のため、職員が手作りの寿司をふるまった。外食もできないことから毎日の食事に変化をつけることで利用者に食の楽しみを提供している。利用者は職員の助けを借り、配膳や下膳、食器拭きなどできることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個別に合った器や盛り付けを行い工夫している。 食事・水分量ともに記録管理し栄養摂取できるよう支援している。水分を余り取らないかたはゼリー等で提供を行なう。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは一人一人の能力に合わせて声掛け、見守り介助を行っている。義歯・定期的な洗浄を行い定期的な歯科受診を行って居る。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄状況を記録しパターンをつかみ失禁を時間での誘導を行ない減らすよう支援を行う。	出来るだけトイレでの排泄を支援するため、日中はオムツを使用して全介助している方も、便意のある時はトイレでの排泄を支援している。布のパンツを使用している方約1/3は見守り、リハビリパンツにパットを使用している方は定時誘導、全介助の方は定時交換している。トイレ清掃を朝晩行うほか、使用後は消毒などをこまめに行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事の提供と水分量も把握し体操や運動への働きかけをし便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の体調や希望により変更したり入浴拒否が強い場合は無理強いせず時間をずらし声掛けを行って居る。週2～3回での入浴を実施し、又、季節を感じてもらう為、しょうぶ湯・ゆず湯にするなど工夫を行なう。	入浴は週2回～3回、午前と午後を実施している。入浴を好まない方もいるが、対応者や気分を変えたりしながら入浴している。湯は清潔に配慮して一人毎に交換している。利用者は季節の柚子湯や菖蒲湯、職員との1対1の会話を楽しみながら入浴している。入浴後は保湿クリームで皮膚の保護に努めている。利用者によっては好みのクリームなどを持ち込む方もいる。浴室内暖房や脱衣場の床暖房でヒートショックに備えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを大事にし、居室で休む際に室温調整に気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果・副作用等は薬剤師との確認を行い、薬の変更の際は症状の変化に注意し確認に努めている。誤薬防止のため二名での確認を行なう。又、薬剤師による勉強会の実施を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でその人に出来る事を役割として活躍の場を提供し、趣味・嗜好が継続出来るよう支援を行う。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく外へ出る機会を作り散歩に出たり、計画を立て外食を行ったり地域の夏祭りへの参加を行っている。	新型コロナ禍以前は介護タクシーでの遠出や個別対応で買い物などにも出ていたが、現在は事業所周辺を散歩したり、玄関先のベンチで隣の保育園の園児が遊ぶ様子を眺め和んでいる。テラスでの外気浴やお茶を楽しむことも時々行っている。園芸の好きな方は庭に出て花の植え込みや手入れをして楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心する方には、御家族のご理解の下財布をもって頂いている。買い物の要望がある時は一緒に外出し選んで頂き支払うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は要望はほとんどない為、年末に御家族宛に年賀状を出すようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝の掃除の時間に掃除機の大きな音を出す他は無意味な音は出さないようにする。 空調管理をこまめにしている。 季節の飾り、壁紙作りをしている。	日常清掃に加え、年2回、専門業者が各居室を含め、植栽、空調、窓などの清掃に入っている。利用者も紙モップなどを使い、できる範囲で掃除をしている。冬場はこまめな換気や加湿機による加湿、濡れタオルを干す、手が触れるところの消毒などで感染症予防に努めている。利用者はほとんどの時間を明るくゆったりとしたリビングのテーブルやソファでくつろいで過ごしている。1階のウッドデッキで今年の父の日に男性利用者が職員と1対1のバーベキューを楽しんだ。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる居場所は確保されていないが、将棋や歌、テレビを見る等の思い思いに過ごせるように支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものや使い慣れた物を持ち込んで頂き御本人の混乱やストレスを減らし居心地の良い環境作りをご家族と連携し整えている。	居室にはエアコン、照明、クローゼット、防災カーテンを備えている。介護ベッドが必要な方には法人から無償で提供がある。利用者は使い慣れた家具やテレビ、ラジオなどの生活用品を持ち込み、好きな縫いぐるみや家族写真などで思い思いの部屋にしている。就寝前のひと時を居室のテレビで時代劇やスポーツ番組を見て過ごしたり、ラジオを聞いたりする方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づく 建物内部は一人ひとりの「できること」や 「わかること」を活かして、安全かつでき るだけ自立した生活が送れるように工夫し ている	動線上に不要な物を置かないよ うにしトイレに表示をし分かり やすくする等自立した生活が送 れるように工夫をしている。		



目 標 達 成 計 画

事業所名 ニッパセンター大野台

作成日 令和2年 12月 24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	13	非常災害時に併設の小規模多機能とともに地域の要援護者、消防団への協力要請を期待します。	地域と関わり協力関係を構築し、訓練時より連携を図る。	運営推進会議を通して、自治体の連携を深める。コロナ終息後、一緒に訓練を行える関係性を作る	一年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。